

協伸商会穀物レポート [KKR] Vol. 021

(2019/20 年度 USDA 米国農務省 4 月 9 日発表)

[ハイライト] ①3月以降、新型コロナウイルスの急速な世界的蔓延によって世界の穀物市場も品目による強弱はあるが敏感に反応している。目立つのは主食用の小麦/コメ等がコロナによる消費拡大等によって需給タイトとなり価格が上昇している点。②特に、小麦はロシア/UKR等の自国供給確保による輸出規制の導入やEUにおける消費増による価格上昇、コメはタイ北部の降雨不足/ベトナム/ミャンマー等の輸出枠設定等も相まってFOB価格が\$580/ト(前年同期\$433/ト)と35%近く高騰した。③一方、トウモロコシは米国の作付面積拡大予想とコロナによるガソリン需要減⇒エタノール生産減少見通し等から価格は大きく下落、大豆もコロナによる世界的な景気後退予測等から市況は低迷している。④国内では「緊急事態宣言」/外出自粛等によって足元でパスタ/麺類等の家庭需要が拡大、小麦需給がタイト見られ今後一時的にMAFF入札数量増加の可能性がある。⑤米中貿易協議「第一段階合意」に基づく中国の米国産農産物輸入拡大は4/3久方ぶりに大豆56万ト成約があったがコロナ禍による混乱と米中摩擦のため大きな進展は見られない。⑥他方BRA大豆収穫は4月初めまでに約8割終了、最終生産量は過去最高124百万トと予測。また輸出は3月1160万ト(中国向け約76%)と好調、年間78.5百万トとこれも史上最高を予測。

1、世界穀物需給の概要(大豆除く)

- ① 生産量：2,664 百万ト(前年比 1.4%増、前月比▲0.1%)
- ② 消費量：2,658 百万ト(前年比 0.1%増、前月比変わらず)
- ③ 貿易量：426 百万ト(前年比 ▲0.1%、前月比▲0.1%)

2、とうもろこし

- ① 生産量：1,113 百万ト(前年比 ▲1.0%、前月比変わらず)
- ② 消費量：1,131 百万ト(前年比 ▲1.2%、前月比▲0.4%)
- ③ 貿易量：166 百万ト(前年比 ▲8.3%、前月比変わらず)
- ④ 概況：上記したようにコロナのよる世界的な原油需要減少が米国のシェールオイルに打撃を与え同時にエタノール減産に連動してきた。またUSDA 農家作付意向調査による来年度作付面積予測が9,699万エーカー(前年比+8.1%)と2012年以来の高水準となり市場価格を押し下げている。価格は\$3.31/Bu(前年\$3.63/Bu、前月\$3.77/Bu)と前月比¢46下落した。

3、小麦

- ① 生産量：764 百万ト(前年比 4.5%増、前月比変わらず)
- ② 消費量：750 百万ト(前年比 1.7%増、前月比▲0.7%)
- ③ 貿易量：183 百万ト(前年比 5.3%増、前月比▲0.5%)
- ④ 概況：コロナの影響により世界的に主食である小麦関連商品の家庭需要が拡大しており価格は強含みである。USDA 作付意向調査面積は4,466万エーカー(前年比-1.1%)と減少、ロシア輸出予測は輸出規制の為33.5百万トと前月比150万ト減少等も市場の強材料になっている。価格は\$5.49/Bu(前年\$4.68/Bu、前月\$5.21/Bu)と前月比¢28上昇した。

4、大豆

- ① 生産量：338 百万ト(前年比▲5.7%、前月比▲1.1%)
- ② 消費量：348 百万ト(前年比 1.5%増、前月比▲0.5%)
- ③ 貿易量：152 百万ト(前年比 2.2%増、前月比▲0.3%)
- ④ 概況：南米BRA/ARGとも収穫後半の乾燥気候によって別紙の通り前月比生産量が両国で約350万ト減少し全体生産量も減少。USDA 作付意向調査面積は8,351万エーカー(前年比+9.7%)と拡大も市場の弱含み要因。価格は\$8.54/Bu(前年\$8.99/Bu、前月\$8.83/Bu)と前月比¢29下落した。

世界の穀物・大豆等の需給

2020年4月9日
米国農務省発表：単位100万トン

主要穀物世界の需給						
	2017/18	2018/19	2019/20	2017/18	2018/19	2019/20
全穀物	2,619	2,627	2,667	3,418	3,444	3,467
	2,619	2,627	2,667	3,418	3,444	3,467
小麦	763	731	764	1,026	1,015	1,042
	763	731	764	1,026	1,015	1,042
粗粒穀物 (とうもろ こし等) 注1	342	359	342	437	458	449
	342	359	342	437	458	449
大豆	338	342	338	449	454	449
	338	342	338	449	454	449

世界のとうもろこし需給						
	2017/18	2018/19	2019/20	2017/18	2018/19	2019/20
世界計	320.81	320.94	320.94	1,112.01	1,113.02	1,113.02
	320.81	320.94	320.94	1,112.01	1,113.02	1,113.02
アメリカ	56.41	56.41	56.41	347.78	347.78	347.78
	56.41	56.41	56.41	347.78	347.78	347.78
アルゼンチン	2.61	2.37	2.37	50.00	50.00	50.00
	2.61	2.37	2.37	50.00	50.00	50.00
ブラジル	5.19	5.19	5.19	101.00	101.00	101.00
	5.19	5.19	5.19	101.00	101.00	101.00
EU	7.84	7.76	7.76	65.00	66.63	66.63
	7.84	7.76	7.76	65.00	66.63	66.63
日本	1.44	1.44	1.44	0.00	0.00	0.00
	1.44	1.44	1.44	0.00	0.00	0.00
中国	210.32	210.32	210.32	260.77	260.77	260.77
	210.32	210.32	210.32	260.77	260.77	260.77
ウクライナ、 ロシア	1.67	1.67	1.67	50.08	50.08	50.08
	1.67	1.67	1.67	50.08	50.08	50.08

脚注1：粗粒穀物はとうもろこし、マイロ、大麦、燕麥、ライ麦等の計で約80%がとうもろこしである。
脚注2：年度は穀物年度。地域・作物により異なる。例：アメリカ産とうもろこし、大豆：9月～8月。
脚注3：ウクライナ、ロシアは両国の合計。

世界の大豆需給						
	2017/18	2018/19	2019/20	2017/18	2018/19	2019/20
世界計	111.88	110.81	110.81	341.76	338.08	338.08
	111.88	110.81	110.81	341.76	338.08	338.08
アメリカ	24.74	24.74	24.74	96.84	96.84	96.84
	24.74	24.74	24.74	96.84	96.84	96.84
アルゼンチン	28.89	28.89	28.89	54.00	52.00	52.00
	28.89	28.89	28.89	54.00	52.00	52.00
ブラジル	30.48	30.48	30.48	126.00	126.00	126.00
	30.48	30.48	30.48	126.00	126.00	126.00
中国	19.46	19.46	19.46	18.10	18.10	18.10
	19.46	19.46	19.46	18.10	18.10	18.10
EU	1.73	1.73	1.73	2.60	2.60	2.60
	1.73	1.73	1.73	2.60	2.60	2.60

世界の小麦需給						
	2017/18	2018/19	2019/20	2017/18	2018/19	2019/20
世界計	277.57	278.10	278.10	764.49	764.46	764.46
	277.57	278.10	278.10	764.49	764.46	764.46
アメリカ	29.39	29.39	29.39	52.26	52.26	52.26
	29.39	29.39	29.39	52.26	52.26	52.26
アルゼンチン	1.74	1.74	1.74	19.50	19.50	19.50
	1.74	1.74	1.74	19.50	19.50	19.50
オーストラリア	4.96	4.96	4.96	15.20	15.20	15.20
	4.96	4.96	4.96	15.20	15.20	15.20
カナダ	6.04	6.04	6.04	32.35	32.35	32.35
	6.04	6.04	6.04	32.35	32.35	32.35
EU	10.00	10.00	10.00	154.00	154.00	154.00
	10.00	10.00	10.00	154.00	154.00	154.00
中国	139.77	139.77	139.77	133.59	133.59	133.59
	139.77	139.77	139.77	133.59	133.59	133.59
インド	16.99	16.99	16.99	103.60	103.60	103.60
	16.99	16.99	16.99	103.60	103.60	103.60
ロシア	7.82	7.82	7.82	73.61	73.61	73.61
	7.82	7.82	7.82	73.61	73.61	73.61
ウクライナ	1.59	1.59	1.59	29.00	29.00	29.00
	1.59	1.59	1.59	29.00	29.00	29.00

世界の穀物生産/消費/輸入大国＝中国とその食糧政策(3)

この間連載している中国シリーズは前回(1)(2)で世界に占める中国の穀物生産/輸入/在庫量の歴史的推移と最低買付価格制度等の食糧政策の概要について触れてきたが、今回は中国の農業生産の基礎となる農地利用の実態と課題等について以下整理したい。このことが中国の将来的な穀物生産の可能性と限界を見極める上で重要ではないだろうか。

- ① 中国の農業生産は、前回触れたように新中国誕生以降土地の集団所有を原則とした「人民公社」をベースとしたが、その非効率性等から破綻し1980年代初頭までに解体され新たに家族経営を農業の根幹とした「土地請負責任制度」に転換し現在に至っている。しかし土地所有と使用権は分離されており、所有は「村民小組」「村民委員会」等、農民はその小組等から30年の期限付きで請負って使用する形となっている。従って、農民は土地の売買/譲渡等の権利のない不利な立場であり「三農問題」の背景にもなっている。
- ② また中国は農家個々の耕作面積は極めて狭く、地域差はあるが平均請負耕地面積は0.4ha(2014年)である。しかし1990年代から農地流動化の流れが顕著になり、特に農地賃借をベースにした近年沿海部や比較的大規模経営の多い東北地方で高い流動化率(年20～30%)を示している。その結果、従来の零細農家経営から抜け出し「新しい農業経営体系」と言われる◎専業大規模農家、◎家庭農場、◎農民專業合作社、◎農業企業等の集約的農業経営が発生してきている。例えば家庭農場は2012年全国87.7万戸、経営面積合計1173万ha、平均面積13.4haに達している。
- ③ 中国の農業関係統計は、毎年発表される「中国統計年鑑」や「中国糧食発展報告」等によるがこれらがどの程度正確なのかよく分からない。また必要な統計が記載されているとは限らない。例えば年鑑には「農家戸数」の記載は見当たらず農村人口/農村就業人口等の大まかな数字であり、その点米国の「農業センサス」とは大きな差がある。従って農家平均耕作面積0.4haの根拠も総耕作面積を就業人口で除いただけであり個別農業経営の実態はなかなか分からない。
- ④ 中国の農業生産地帯分布は、[図1]の通りである。大きくは、◎年間降水量(1200/1000/300mmライン)、◎平均気温(1月10度C/-6度Cライン)、◎海拔(500/3000mライン)で作物別に全国10地域に区別される。更に大別すれば降水量1000mmの「チンリン山脈/ホワイ川線」を境に、北＝コーン/小麦/大豆/マイロ、南＝水稻＋一部小麦/コーンという分布であるが、この構図で主要穀物合計年5.5億トンと世界最大の生産が行われている。
- ⑤ 更に、中国の総耕作面積と作物別の穀物用耕作面積の推移を2000年～2017年まで見たのが[表1]である。これを見ると総耕作面積は1.56⇒1.66億ha(106.4%)、穀物用耕作面積は1.08⇒1.18億ha(108.7%)と拡大している。特にそれを牽引しているのがコーンでありこの間2.30⇒4.24億haと約1.8倍と急増。生産量は同期間105⇒259百万トンと約2.5倍に増加し、穀物生産量を大きく押し上げている。この背景は、中国の食糧需要増→配合飼料生産拡大等)や最低価格買付制度などを軸とした食糧政策によっているが、米国と比べて特徴的なことは穀物生産に重点が置かれその耕作面積比率が高いことである。具体的には[表1]にもある通り、中国のその比率は2000年以降ほぼ70%前後、それに対し米国は58%(2017年)と10%以上低い。
- ⑥ 歴史的に見れば中国の穀物用耕作面積は、1980年80%、1990年76%、2000年69%と低下したが、野菜/果樹は1990年634/518万ha⇒2000年1524/893万ha⇒2017年1998/1113万haと消費需要多様化の中で大きく拡大し、この30年近い中で約2.7倍となっている。このように中国の近年の耕作面積推移はバランスが取れているように見えるが、問題はそれでも尚且つ食糧(穀物)自給は叶わず大豆を中心に大量の輸入に頼らざるを得ない局面にきていることである。一方米国との比較で言えば、耕作面積がほぼ同じレベルとはいえ小規模経営/機械化の立ち遅れ/GMO種子未利用等の条件の中でどうやって同等の穀物生産が可能なのか…？次回以降この点を見ながら中国の食糧自給問題と穀物輸入(海上交易)の可能性について触れてみたい。

図1 <中国の農業生産分布>

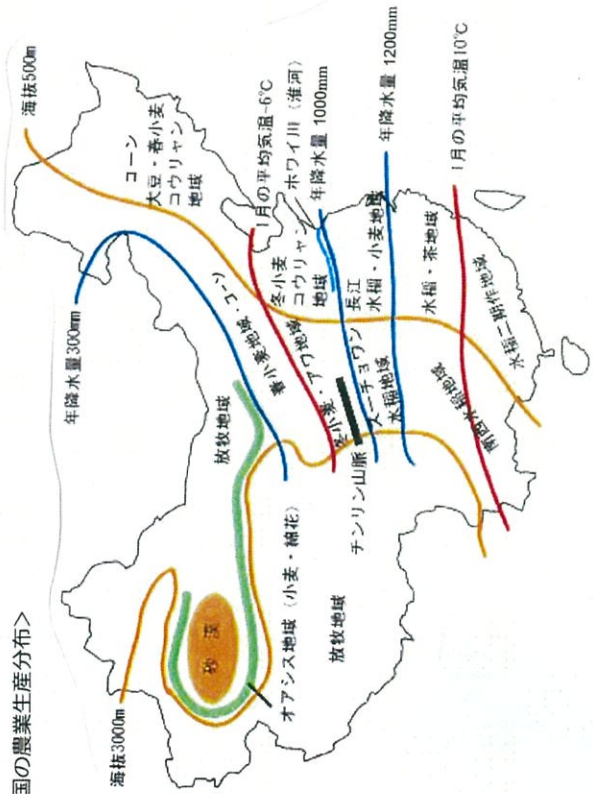


表1 <中国の品目別耕作面積推移>

年度	中国				米国	
	2000	2010	2017	2017/2000	2017	2017
総耕作面積(A)	15,630	15,678	16,632	106.4%	16,015	16,015
穀物耕作面積(B)	10,846	11,169	11,798	108.7%	9,316	9,316
穀物比率(B)/(A)	69.3%	71.2%	70.9%	-	58.2%	58.2%
米耕作面積(生産量)	2,996	3,009	3,074	102.6%	97	97
小麦耕作面積(生産量)	136.5	139.3	148.9	109.1%	5.7	5.7
小麥耕作面積(生産量)	2,665	2,445	2,450	91.9%	1,567	1,567
コーン耕作面積(生産量)	102.0	114.5	134.3	131.7%	47.4	47.4
大豆耕作面積(生産量)	2,305	3,497	4,240	183.4%	3,670	3,670
大豆耕作面積(生産量)	105.0	168.0	259.1	246.7%	371.1	371.1
大豆耕作面積(生産量)	1,266	1,105	1,005	79.4%	3,642	3,642
大豆耕作面積(生産量)	15.4	14.4	15.3	99.4%	120.1	120.1
穀物生産量計	358.9	436.2	557.6	155.4%	544.3	544.3

出所：中国統計年鑑、USDA World Agricultural Supply & Demand

USDA農業センサス2017